

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400900		
法人名	有限会社プラン		
事業所名	グループホームひまわり苑 1階		
所在地	名古屋市緑区大高町字北平部1-76		
自己評価作成日	平成27年6月27日	評価結果市町村受理日	平成27年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2371400900-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出支援には力を入れています。事業所全体で行く外出もありますが、個々での喫茶店や買い出しなど個別支援を大事にしています。又理念にもありますが家庭的な雰囲気や大事にし利用者様にとってより良い環境で過ごして頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームで重点的に取り組んでいることとして、外出支援に取り組んでいる。ホームのその日の状況や利用者の状態等に合わせ、可能な限り外出できるように取り組んでおり、利用者がホームで活動的に生活できるような支援を目指している。その一方で、ホームには、食事や排せつをはじめとして、日常生活の多くの場面で職員による介助が必要な方も生活しており、職員は様々な利用者の身体状態に合わせた支援に取り組んでいる。ホームでは、職員にはあたたかい気持ちで利用者へ接してほしいという思いから、分かりやすい言葉で理念をつかっており、「笑顔のたえない明るいホーム」になるように指導等が行われている。また、地域の方との交流についても徐々に進められており、ホームから地域の活動に参加する機会をつつたり、近隣の方がホームに挨拶に訪れるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、フロアに貼りだし、職員全体で確認できる。	理念を分かりやすい言葉で表現し、職員への周知と実践につながるように、ホーム内への掲示が行われている。「笑顔のたえない明るいホーム」を目指し、外出の機会を増やす等、家庭的な生活の実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入。町内の行事にも徐々に参加するようにしている。	地域の方との交流については徐々に深まるように取り組んでおり、ホームから地域の活動に参加したり、地域の方がホームに訪問する機会も得られている。また、中学生の職場体験も受け入れており、地域貢献にも取り組んでいる。	以前と比べて地域の方との交流の機会が増えている。地域の活動に参加したことで、ホームのことを知ってもらう機会にもつながっている。今後の継続した取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	あまり機会がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催、最近地域住民の方の参加はなし。	会議には協力医の参加も得られている事で、会議を通じて、医療面に関する意見交換にもつながっている。また、会議の際には写真入りの資料を用意することで、ホームの運営状況を分かりやすく報告している。	会議の日時が直前に決まる現状があるため、出席の協力が難しくなっている。定期的な日時をつくる機会もつくりながら、地域の方や家族等の参加者が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の方が居るため、区の職員とは月に1回以上顔合わせしアドバイスを頂いたりしている。	生活保護の方が複数生活していることもあり、行政の担当者との情報交換等が行われている。また、管理者は区内の介護事業所との交流会にも参加、協力しており、地域包括支援センター等との交流にもつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は理解しているが、やむを得ない場合は家族の同意のもと行っている。	利用者の身体状態の状況もあり、拘束等の対応が行われているが、職員への指導等については、代表者、管理者から行うように取り組んでいる。また、ユニットの施錠についても利用者の状況により開けるようにしている。	利用者への対応について、職員間で意識向上をはかることができるように、定期的な事例検討や振り返りをはじめ、研修等の機会を設けていく取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	言葉使いには日々気をつけているが、だんだん慣れてくることから言葉が荒くなってきた際は社長、管理者より注意するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	あまり機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に十分に説明している。なにかあればその都度対応。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱を設置して、苦情などがあった場合にミーティングにて話し合い改善していく。	ホームの行事の際には家族にも参加を呼びかけており、外出行事や食事会の際には家族も参加する機会が得られている。また、ホーム内に意見箱を設置している他、毎月担当者による1か月の様子を記載した便りが発行されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	その都度対応。	毎月の職員会議や日常的な意見交換等を通じて、管理者が把握した要望等は法人代表者に伝えられ、運営への反映につなげる。また、法人代表者も職員と向き合えるように、毎月の給与明細を一人ひとりに手渡し取り組みを継続している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	その都度対応。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修に参加できるように環境を整えている。又研修に行った職員が研修で学んだこと職員全体で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	名古屋市南東部GH交流会に参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前、入居後に利用者様本人とゆっくり話し合い本人の気持ち、やりたいこと大事にするように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ゆっくり時間をとり質問、不安、心配事に対して聞き取り対応している。又こちらからも言いにくい要望なども言いやすいような雰囲気を作りなるべく不安なく入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護保険が他の事には使えないので、他のサービス利用は金銭的にも厳しいしがひまわり苑でできることにはその都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩でありお客様である事を頭におき、友達感覚にならないように意識、注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	いつでも面会可能なためなるべく多く面会していただき、利用者様と家族の絆を大切にいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	その都度対応。	現状、利用者の馴染みの関係の継続は少なくなっているが、家族による支援が可能な方については、一緒に食事や外食等に出かける機会がつけられている。また、利用者の中には、自宅に戻る機会も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コミュニケーションが難しい利用者様などでも職員が間に入り利用者様同士の関係性も大事にしようようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所の際には家族に相談があればいつでも連絡、来苑してくださいと伝えてある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様1人ひとりの思いを会話、表情、行動などから読み取り、本人の意向を把握できるように努めている。家族情報を頂く場合もある。	職員は担当制で利用者一人ひとりの報告書を作成し、思い等の把握につなげ、把握した情報は毎月のカンファレンスでも話し合われている。また、利用者毎の記録ノートを用意しており、その方の細かな情報も記録し、職員間で共有できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に以前の生活習慣がわかるように除法用紙を記入してもらおう。又なにかわからない事があればその都度家族に情報を頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ミーティングなどで話し合い職員全体で把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心に話し合いを重ね介護計画を作成している。	介護計画については、基本3か月での見直しを行っており、モニタリングについてもカンファレンス等を通じて行うようにしている。また、利用者一人ひとりに合わせた記録を行う事で、その方の意向等に合わせた支援につなげている。	現状、重度の方や親族と疎遠の方も生活している。利用者のニーズ等を介護計画に盛り込み、職員がその方のニーズや思い等に合わせた支援につなげていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録に記入、また何かあれば連絡帳にも記入。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その都度対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の心身の力を発揮できているかは分からないが、近所のスーパーや喫茶店などに行ったり楽しく過ごせる様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	基本的にひまわり苑の協力医にかかりつけ医を変更していただいている。本人、家族の希望があれば個々に対応。	協力医による訪問診療の他にも、時間外の対応も行われている。家族による受診支援が困難な際には受診等の対応も行われており、必要な連携に取り組んでいる。また、ホームでは内科の他にも皮膚科の医師や歯科医師の訪問も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の出勤が少ないため、職員から看護師に情報提供している。又利用者様の体調が悪いときなどは協力医と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と話し合いこまめに状況報告などいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療行為が必要になった場合は協力医と連携し、その都度対応。	ホームでは、利用者の看取りを見据えた支援にも取り組んでおり、協力医とも連携しながらホームでの看取りの実績もある。家族との話し合いを継続しながら、ホームでの支援又は特養等への移行の際にもホームからの支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	看護師より指導、又救命講習の講習などを受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2～3回避難訓練を実施。地域との協力体制はなかなか築けず。	避難訓練の際には夜間を想定した訓練の他にも、職員に対して事前通知なしでの訓練を実施したことで、職員による対応の確認も行われている。また、ホーム内に、水や食料等の必要な備蓄品の確保も行われている。	事前通知を行わない訓練を実施したことで、新たなテーマも見つかっている。地域の方との協力関係を深める取り組みと合わせて、今後の取り組みにつながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	記録、ミーティング、運営推進会議などで個人名は使わずイニシャルでなるべく表現するように努めている。又職員にも利用者様の情報を口外しないように徹底してある。	利用者への言葉かけの対応については、代表者、管理者より敬語を使うように伝えられており、丁寧な対応をするように取り組んでいる。また、定期的な職員会議の機会にも振り返りの機会をつくるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の希望に本人の体調なども考慮しながら、本人に自己決定できるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に利用者様のペースを大事にしている。又職員が職員のペースで仕事をしてしまっている場合は管理者より注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様の好みも尊重している。又利用者様がおしゃれにしたい物などがある場合は家族の同意を得て買い物に連れて行くことある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むき、料理の盛り付けなど簡単なことを積極的にやってもらい一緒に作る、片付けるようにしている。	食材業者のメニューを基本に、ユニットでアレンジが行われており、利用者の好み等にも配慮している。利用者も調理や片付け等、出来ることに参加している。また、毎月のレクリエーションの中で、おやつ等の楽しみも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	業者にて栄養バランスのとれた食事を提供している。又水分補給などにはジュースなど飲みやすいものも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分で出来る方は終わった後に職員がチェック、出来ない方は職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレに行ける方に関しては日々の記録などからある程度予測してトイレで排泄出来る様に支援している。寝たきりの方に関してはトイレに連れて行ってない。寝たきりの方をトイレに連れて行くことが本当にいいことなのかわからないため	重度の方が増えた事もあり、ホームでは新たなチェック表を活用しながら、職員間で一人ひとりの排泄状態の把握に取り組んでいる。利用者の身体状態等により職員複数での介助も行われており、排泄状態の改善や維持に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には看護師、病院などの指示に従い水分を多く摂取したり、軽い運動をするなどして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	体調や看護師の指示により毎日入浴出来ない方もいるが基本的に毎日入浴。職員の勤務時間上入浴時間はこちらが決めてしまっている。	希望等に合わせて毎日の入浴が可能であり、毎日のように入浴している方もいる。重度の方が増えている現状を踏まえながら、ホームではリフトの設置を行っていることで、重度の方も入浴ができる。また、入浴剤を入れたり、季節の入浴を行う事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々にて好きな時間に横になったり、ソファーでくつろいだりしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の服薬されている薬は個々の記録にふファイリングされており、いつでも職員が確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者様自ら進んで出来るような声掛けをし自分の役割を持ってもらうようにしている。嗜好品に関してはタバコ、飲酒なども認めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	喫茶店や買い出しなどなるべく多く外出している。又気候などにもよるが短い時間でも散歩などに行くように心がけている。	ホームでは利用者が外出する機会をつくるように取り組んでおり、日常的にもその日の状況等を見ながら外に出る機会をつくっている。また、ホームに車椅子対応の自動車があることで、車椅子の利用者も外出できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方には所持してもらっている。自己管理が難しい方でも家族と話し合い少額ではあるが所持してることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々にて連絡したい時に対応している。又携帯電話を所持してる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアには行事毎の飾りつけがしてある。玄関、階段には今まで行ったレクリエーションの写真を貼ってある。	リビングは広く、ゆたっりとしており、ソファが置かれたスペースもゆたっりしているため、利用者同士が距離を置いて過ごす事ができる環境である。また、階段の壁には、ホームでの様子を写真で掲示しており、利用者の様子を伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ横のソファで会話したりと自分の好みに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室ないの物はすべて利用者様の個人の物を持ってきて頂いている。又使いやすく安全に過ごせるように職員同士で話し合ったり、家族に相談したりし、工夫している。	利用者、家族の意向にも合わせた居室づくりが行われており、様々な家具類を持ち込んでいたり方やシンプルな雰囲気の方もいる。また、収納スペースが大きいため、車椅子の方も広く利用できる空間が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、フロアなど広く、手摺りもあり歩行しやすくしている。又トイレには位置がわかりやすいように表札をしてある。		